

エコアクション21

平成31(令和元)年度 環境活動レポート

(対象期間:平成31年1月～令和元年12月)



(出陣:青森ねぶた祭 藤本建設 出世大太鼓)



株式
会社 藤本建設

作成日: 令和2年 6月

更新日: 年 月

ごあいさつ

私どもが拠点として活動しております青森市は、風光明媚で、四季もはっきりしているとても豊かな地域です。このすばらしい自然を次世代の子供たちに残し、青森に生まれ育って良かったと思える町づくりのお手伝いにお役に立つべく努力してまいります。
地球環境の改善に役立つ企業を目指し精進致しますので、宜しくお願い致します。

株式会社 藤本建設
代表取締役 長谷川 学

I 環境方針

環境理念

株式会社 藤本建設は、総合建設業及び、産業廃棄物処理業として地球規模の環境及び、地域の環境に関わりが強いことを認識し、全ての現場、全ての社員を含め、環境と調和した持続可能な循環型社会を目指すことを制約します。

行動方針

全社 環境行動指針

1. 温暖化防止のために、環境負荷の低減に努めます。
2. 事業活動から排出される廃棄物の減少に努めます。
3. 環境関連法規は確実に遵守します。
4. 使用資材の化学物質量を適正に管理する様に努めます。
5. 地域活動としてネブタ祭りに参加し、又清掃活動により社会奉仕に努めます。
6. 事務用品、再生資材等、グリーン購入に努めます。

工事部〔建築部・土木部（リサイクルセンター）〕 環境行動指針

1. 現場における排気ガス、騒音、振動、粉塵、排水、化学物質の発生等の軽減に努めます。
2. 社有車、重機においては最新の排ガス、騒音規制への適合に努めます。
3. 受託した産業廃棄物の再資源化に取組み、リサイクル率を向上させます。
4. 残材の分別処理に徹底して努めます。（リサイクルの徹底）
5. 当社の商品である「高気密・高断熱工法（ヒーローマンション・スターハウス）」省エネ建築物の施工に努めます。
6. リサイクル（再生品）の積極的導入に努めます。
7. フォスター商品（シックハウス症候群 対策）の使用に努めます。
8. 清掃ボランティア活動の実施に努めます。

営業部／総務部 環境行動指針

1. O. A. 機器については、エネルギー効果の高い機種導入に努めます。
2. 用紙類については、再生紙導入に努めます。
3. エコマーク商品（グリーン購入）を優先的に購入します。
4. 会社内の空調、電気、水道使用には徹底して削減に努めます。

作成日： 平成22年12月 1日
更新日： 平成30年 4月 3日

代表取締役 長谷川 学

Ⅱ 組織の概要

1 名称及び代表者名

株式会社 藤本建設 代表取締役 長谷川 学

2 所在地

本社 青森市大字新城字平岡151番地348
リサイクルセンター 青森市大字鶴ヶ坂字田川139番地35
三沢支店 三沢市南町4丁目31-3355

3 環境管理責任者及び担当者連絡先

責任者 土木部長 後藤 要 TEL: 017-788-2411
担当者 土木部課長代理 宮本 吉行 TEL: 017-788-5594

4 事業活動の内容

土木工事業・建築工事業・とび・土工工事業・ほ装工事業・しゅんせつ工事業・塗装工事業・
防水工事業・内装仕上工事業・造園工事業・水道施設工事業・解体工事業
一級建築士事務所・宅地建物取引業・
産業廃棄物収集運搬業・産業廃棄物処分業(中間処理)・再生砕石(RC-40)販売

5 事業の規模

工事等の件数	296 件
処理量	5600 t
売上高	62 億円(平成31(令和元年度))
従業員数	52 人
事業所の延べ床面積	954 m ²

6 対象範囲(認証・登録範囲)

本社、リサイクルセンター及び三沢支店を対象範囲とする。

7 事業年度

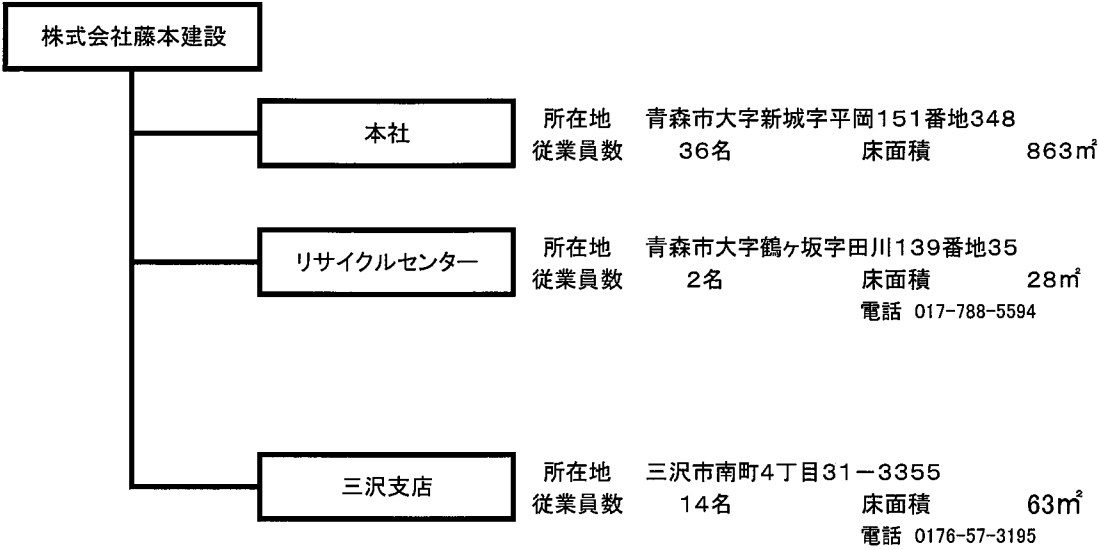
平成31年1月～令和元年12月

8 環境活動レポートの対象期間(発行日)

平成31年1月～令和元年12月(発行日: 令和2年6月1日)

株式会社藤本建設 組織図

R2年4月1日現在



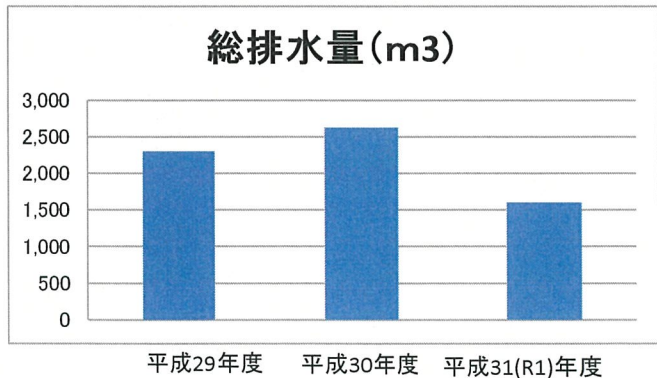
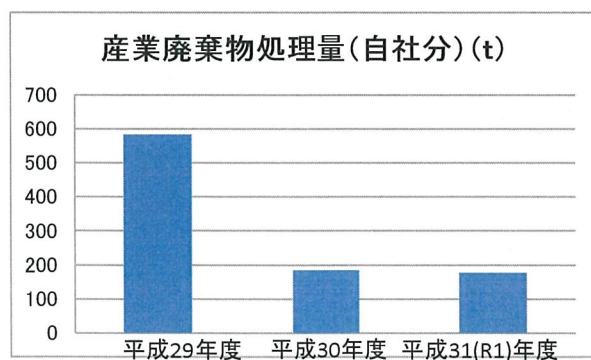
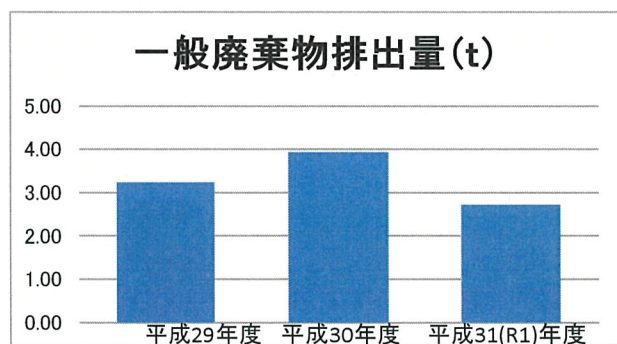
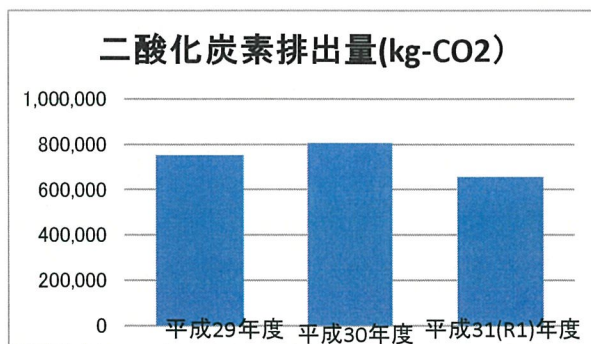
Ⅲ 環境目標とその実績

1 主な環境負荷の実績

表 1、主な環境負荷等の実績

項目	単位	平成29年度	平成30年度	平成31 (R1) 年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	749, 526	804, 782	653, 831
一般廃棄物排出量	t	3.23	3.93	2.72
産業廃棄物処理量(自社分)	t	584	185	176
総排水量(水資源投入量)	m ³	2, 295	2, 621	1, 599
化学物質使用量	t	0.38	0.3	0.02
グリーン購入量(環境物品購入)	品目数	—	—	—
環境に配慮した施工	件数	—	—	—
地域貢献活動	件数	3	3	3

(注)二酸化炭素排出量(電力)の算定に使用した排出係数は、0.553kg-CO₂/KWhです。



2 環境目標の設定

当社では、平成29年度を初年度として事務所及び建設現場等における環境目標を設定し、環境負荷削減等に取り組んでおります。表2は、全体の環境目標を掲載しました。

(1) 平成29年度～31年度までの3カ年分

改訂年月日：平成31年4月1日

表2 環境目標 (全体)

コア指標	環境方針	環境目標項目	削減率又は増加率(%)	基準年度	年度毎目標値 (基準年度に対する削減(増加)率)			中長期の目標
			単位	基準値	H29年度	H30年度	H31年度	平成29年度～31年度
二酸化炭素排出量	省エネルギーの推進	電力の削減	削減率(%) kwh	H28年度 118,866	1	2	3	3
		灯油の削減	削減率(%) L	H28年度 29,929	117,242	116,489	115,300	115,300
		LPGの削減	削減率(%) kg	H28年度 129	1	2	3	3
		ガソリンの削減	削減率(%) L	H28年度 41,462	127	126	125	125
		軽油の削減	削減率(%) L	H28年度 187,635	1	2	3	3
		二酸化炭素排出量の削減	削減率(%) kgCO ₂	H28年度 729,379	40,929	40,633	40,218	40,218
	二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量の削減	削減率(%) kgCO ₂	H28年度 729,379	185,757	183,882	182,006	182,006
廃棄物排出量	一般廃棄物の削減	ごみの削減	削減率(%) kg	H28年度 3,260	1	2	3	3
	産業廃棄物の削減(自社分)	最終処分(埋立)量の削減	削減率(%)	H28年度	3,201	3,168	3,162	3,162
			t	93	-	-	-	-
総排水量	節水	節水	削減率(%) m ³	H28年度 1,146	1	2	3	3
化学物質		化学物質の管理推進	- kg	H28年度 0	1,131	1,123	1,112	1,112
グリーン購入	グリーン購入の推進	環境物品等の購入・使用を推進	- 環境物品購入数	-	・(行動目標)化学物質については、漏洩等が無いよう適正に管理し、定期的に確認します。			左に同じ
自らが施工・販売・提供する製品及びサービスに関する項目		建設リサイクル率の向上	再資源化率(%)	H28年度 98.48	98.5	98.6	98.7	98.7
		環境に配慮した施工の推進	- 件数	H28年度 -	・(行動目標)建設現場等においては、環境に配慮した作業・施工を推進し、定期的に確認します。			左に同じ
地域貢献	地域貢献活動の推進	清掃活動等	増加率(%) 件数	H28年度 3	0	-	-	-
					3	3	3	3

購入電力の排出係数は、平成28年度東北電力線の実排出係数

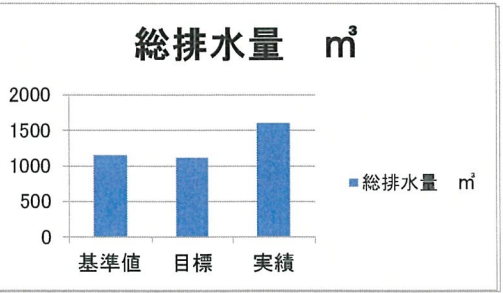
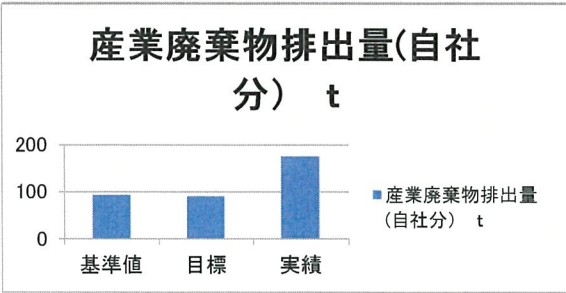
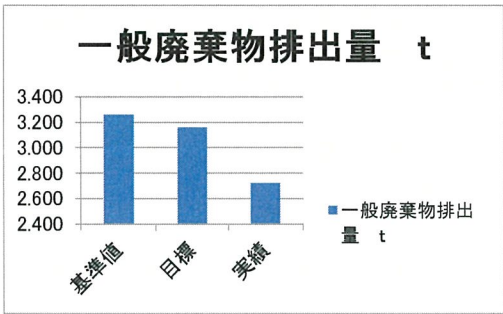
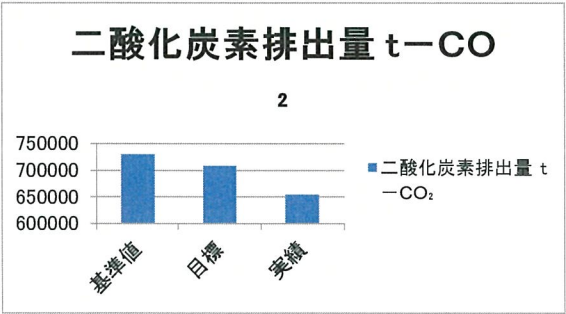
0.553 を使用しました。

3. 環境目標の実績

当社では、環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。
今回は、平成31(令和元)年度分(平成31年1月から令和元年12月まで)の実績についての評価結果を報告いたします。

表3 当該年度の環境目標の達成状況等

項目	単位	基準値 (平成28年)	平成31(R1)年度			環境目標の 達成状況
			削減(増加)率(%)	目標値	実績値	
1. 二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	729,379	3%削減	707,498	653,831	達成
電力使用量	KWh	118,866	3%削減	115,300	114,980	達成
灯油使用量	L	29,929	3%削減	29,031	35,612	未達成
LPG使用量	kg	129	3%削減	125	118.6	達成
ガソリン使用量	L	41,462	3%削減	40,218	30,216	達成
軽油使用量	L	187,635	3%削減	182,006	164,231	達成
2. 一般廃棄物排出量	t	3.260	3%削減	3.160	2.72	達成
3. 産業廃棄物処理量(自社分)	t	93	3%削減	90	176	未達成
4. 総排水量(水資源投入量)	m ³	1146	3%削減	1,112	1,599	未達成
5. 化学物質使用量	kg	—	(行動目標)		0.02	
6. グリーン購入(環境物品購入)	品目数	—	(行動目標)		—	
7. 自らが施工・販売・提供する製品及びサービス	建設リサイクル率	%	98.48	—	98.60	94.26
	環境に配慮した施工に関する項目	件数	—	(行動目標)		—
8. 地域貢献活動	件数	3	—	3	3	達成



Ⅳ. 環境活動計画、取組結果とその評価、次年度の取組内容

表4 主な環境活動計画の内容

環境方針	環境目標項目	取組内容	実施状況 の評価	取組み結果と次年度の取組内容
二酸化炭素排出量削減	電力の二酸化炭素の削減	①事務室、リサイクルセンター等の照明は、昼休み、残業時間等不要な時は消灯している。 ②ロッカー室や倉庫、使用頻度が低いトイレ等の照明は、普段は消灯し、使用時のみ点灯している。 ③夜間、休日は、パソコン、プリンター等の主電源を切っている。 ④ブラインドやカーテンの利用等により、熱の出入りを調節している。	○	事務所、現場は目標達成。 三沢、リサイクルセンターは未達。 全体では、目標達成となりました。 次年度は、目標達成できるよう節電に取り組んでいきます。
	建設機械等の燃料の二酸化炭素削減	①作業時間や待機時間、走行距離の短縮化を図っている。 ②運搬経路を選択する際に、晴員、渋滞等の道路条件を考慮している。 ③エコドライブ等運転方法の配慮(急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐車中のエンジン停止等)を励行している。 ④タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正値(メーカー指定の空気圧)を保つように努めている。 ⑤排気ガスや騒音のレベルを抑えるため適正な車検整備を行っている。	○	全体は目標達成。 暖冬により、除雪車両の出動回数が減った事が要因と思われます。
	灯油・LPG等の二酸化炭素の削減	①空調の適温化(冷房28度程度、暖房20度程度)を徹底している。 ②窓の開閉等により外気取り入れ量を調整して室温を調節している。 ③空調機については、フィルターの定期的な清掃、交換を行う等、適正に管理している。 ④夏季における軽装、冬季における重ね着等服装の工夫をして、冷暖房の使用を抑えている。	△	灯油は未達、LPGは目標達成。 灯油は、前年より5000L削減できましたが目標達成に至りませんでした。 来年も削減に努めています。
廃棄物排出量削減	廃棄物の発生抑制	①使い捨て製品(紙コップ、使い捨て容器入り弁当等)の使用や購入を抑制している。 ②再使用またはリサイクルしやすい製品を優先的に購入し、使用している。 ③商品の購入時には、簡易包装のものを優先的に購入している。	○	9月に動機システムが導入され、ペーパーレスの推進を行っています。 これから、更に削減を進めていきます。
	リサイクルの促進	①紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池等について、分別回収ボックスの適正配置等によりごみの分別を徹底している。 ②発生したごみは可能な限り、圧縮等を行い、減量している。 ③回収した資源ごみがリサイクルされるよう確認している(委託業者等に対して)。 ④コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収ルートを確認し、リサイクルを図っている。	○	殆どの紙類は再資源化されている。 (オフィス町内会)この実績をキープし、更に再資源化量を上げたい。
	産業廃棄物等の適正処理	①産業廃棄物管理票(マニフェスト)をもとに産業廃棄物の適正な処理を行っている。 ② ③ ④ ⑤	○	適正処理を行うため、産業廃棄物処理法遵守の結果、問題なく業務を推進できたので継続して取り組んでいきたいと思っています。
総排水量削減	節水	①日常的に節水を励行している。 ②節水洗車に努めている。 ③ ④ ⑤	△	昨年より、1022m3削減しましたが未達となりました。
	排水処理	①水質汚濁等について、法令による基準より厳しい自主管理基準を設定し、その達成に努めている。 ②排水処理施設を適切に管理している。 ③有害物質や有機汚濁物質ができるだけ混入しないようにしている。 ④排水等の監視及び測定や排水処理設備の点検を定期的に行い、適正に管理している。	○	雨の日は、問題なく沈殿池に排水されているため今後も定期的に素堀内のゴミ等の除去作業を行い良好な排水を保つようにします。
化学物質の管理推進		①化学物質については、その種類、使用量……把握し、記録・管理している ②化学物質の安全性に関する情報伝達のためMSDS(化学物質安全データシート)により管理している ③化学物質のタンク、パイプ類は漏洩、拡散等を防止できる構造としている	○	引き続き現場内での適正管理と定期確認の精度UPを図る。
グリーン購入	環境に配慮した物品等の購入、使用等	①環境ラベル認定等製品を優先的に購入している。 ②再生材料から作られた製品を優先的に購入、使用している。	○	再生材料で作られた製品の優先購入に更に力を入れたい。
	・環境コミュニケーション ・社会貢献 ・その他	①年3回の道路清掃活動	○	今年も予定通りの活動が実行できたので次年度も同様の取り組みを計画し継続して取り組んでいきたいと思っています。

○:評価出来る、△:まずまず評価できる、×:評価できない

環境活動の状況



花壇への花植え（令和元年6月14日）
（西バイパス・側道）



年3回の国道清掃奉仕活動（令和元年4月26日）



火災想定訓練（令和元年6月14日）



（同 上）

V 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規である建設リサイクル法、廃棄物処理法等について遵守状況を確認したところ違反はありませんでした。住民等からの苦情もありませんでした。
また、過去3年間、関係当局からの違反等の指摘、訴訟について、問題ありません。

VI 代表者による全体評価と見直しの結果

本年度、環境目標全11項目における達成:未達成項目比率は、7:4という結果になった。(昨年達成:未達成項目比率は、3:8)

本年度、目標達成が大きく改善しているが、主な要因は冬季間における小雪が燃料消費量減少による影響と判断します。こうしたなか、各社員の意識改革を最重要と考え環境対策に取り組む。

- ・「環境負荷軽減意識」の向上と維持を目標とする。
 - ① 工事現場での各種作業時(エネルギーの発生を抑制する行動等)における意識改革
 - ② 車両・重機使用時(アイドリングストップや作業段取りによる時間短縮等)における意識改革
 - ③ 清掃活動、地域貢献をさらに一歩前進させる意識改革
 - ④ 普段の私生活においても、環境に配慮した行動を心がける意識改革

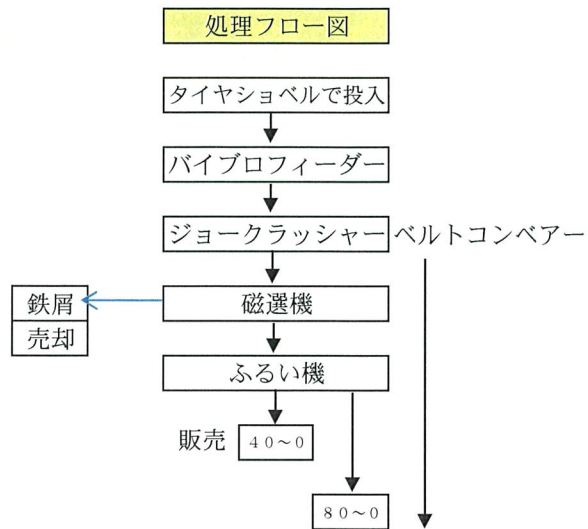
意識改革こそ、循環型社会への貢献であると信じ努力をします。

以上

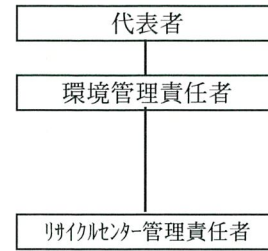
VII. 廃棄物処理に係る組織の概要

[illegible]

処理方法・処理工程



組織図



受託した産業廃棄物の処理量

平成31(令和元)年度

処理方法等		廃棄物等種類	処分方法等	処理量 t	
収集運搬					
収集運搬量合計				0	
中間処理	がれき類			5600	
うち再資源化等	がれき類	破碎・選別後路盤材化		5595	
再資源化等量小計				5595	
中間処理合計				5595	
最終処分					
最終処分量合計				0	
中間処理後の産業廃棄物	最終処分				
	再資源化	廃プラ	破碎・選別後原材料化		3
		木くず	破碎・選別後原材料化		2
		がれき類	破碎・選別後路盤材化		6258
再資源化等量小計				5	
中間処理後処分量合計				6263	

組織図

リサイクルセンター管理体制

